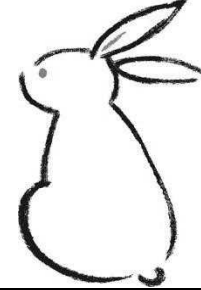




# Shiro-usagi

白兔・素兎



平川塾HP



アメブロ



YouTube

文責：平川 達三

## 現文・古文・英文

Z会の「New Treasure (ニュートリジャー) stage 3」の終盤近くを進む中高一貫校の中学3年生になる生徒さんを指導しているときに、あることに気づいたのです。

その完成度の高さに、ネイティブの一般書レベルとはいえ、今すぐにとはいえないものの、いずれは原典を確実に読めるようになるだろうという予感を抱きつつ読み進めると、シリーズの「stage 3」とはいえ、なかなか読み応えがあります。なお、このZ会のニュートリジャーシリーズですが、ステージは1から5まであり、コンセプトは以下のようになっています。

「stage 1～4」で中学校から高校までに学ぶ英語文法を主軸として、英検2級取得を意識した構成になっていて、英単語や英熟語は勿論のこと、英語の独特の表現など、かなり深い部分にまで網羅され、「stage 5」では、それまでのことを存分に生かして英文を読む練習を通し、大学共通テスト受験へといざなうという大きな流れをもっています。

批判は決していただけない行為とはいえ、公立中学校で使われている英語教科書のうち、サンシャインの教科書の

の人間像に迫る書籍(原典版と邦訳版が発刊されています)とを読み比べると、イギリス英語とアメリカ英語という違いはあるにせよ、時代的な文体の違いや語句の使い方の違いなどは、ある程度なら分かるつもりです。

でも、幸田露伴のお嬢様である幸田文さんが書いた昭和初期から中期にかけての文体と、明治文学の渦中にいた文豪幸田露伴さんの文体とでは、時代的な文体や語句の使い方などの、いわゆる語彙には驚くほどの差があるわけで、日本人である私だからこそ感じるこの出来る明治文体と昭和文体の違いと同じレベルで、1800年代の英文体と現代の英文体の違いを感じるのかどうか、これはネイティブの彼だから知り得ることではないかと思ったのです。

そういう期待を抱きながら、『シャーロックホームズ』の原典版に目を走らせる彼を見ていました。

5分程して顔を上げて、彼はこう言いました。

「*Hmm, that's difficult. There are*

完成度の低さに驚愕しています。

実際に、英語圏で数年間生活をなさった親御様にご覧いただいたのですが、私と同じような感覚をお持ちで、異口同音だったのは、この教科書は英語をキライにする出来の悪さであるということでした。

では、完成度の極めて高いニュートリジャーシリーズをあてがえば良いではないかということになりますが、それはそれで、おそらく半分以上の生徒さんがついて行けなくなるレベルなので、善し悪しであることもまた確かです。

それはともかく、このニュートリジャーシリーズだけでなく、英検2級の実力を要するレベルにまで要約された推理小説『シャーロックホームズ』の一遍である「赤毛同盟」、あるいは、英検準1級の実力を要する、『シャーロックホームズ』の原典版の英文を読むにつけ、現代日本語文(現文)ではなくて、古代日本語文(古文)を読み解いているのが、感覚的によく似ているように感じ、なかなか興味深いことだと思ったのです。

『シャーロックホームズ』シリーズをアーサー・コナン・ドイルが書いたのは1800年代のことで、日本になぞらえ

**a lot of words that are not used or words that have changed form. Even native speakers might not be able to read it unless they study a lot.** う～ん、難しいね。使われていない言葉とか、形が変わってしまった言葉とかがたくさんあるからね。かなり勉強していないとネイティブでも読めないかもね？」

彼の言葉をどうとらえれば良いのか、曖昧で微妙な部分があるとはいえ、例えばこんな感じなのだろうなと思うところがあります。

「ののしる」という言葉が古文にもあります。現代語では「大声で相手の悪口を言いさげずむ」という「罵倒」の意味ですが、古文では「大声で騒ぐ」という意味になり、そこに悪意という意味は含まれません。

「いとをかし」の「をかし」は、平安時代には「趣があって良い」という意味でしたが、鎌倉後期から室町期に入ると、「趣があって良い」という意味だけでなく、現代で言う「おもしろい」とか「興味深い」という2つの意味が現れて、江戸の元禄時代になると完全に「趣があって良い」という意味が限りなく薄くなっていきました。

れば、1867年に大政奉還が行われ、同時に王政復古の号令が発せられているので、江戸末期から明治中期までの文章を読んでいる感覚に近いのではないかというのは、アメリカ人の友人と話していて感じたのです。

アメリゴ・ベスプッチがアメリカ大陸を発見してからの歴史ではなくて、アメリカ合衆国という国家の歴史がその青年にとっての母国の歴史でしょうから、精々300年ほどでしょう。その青年を観心寺に案内したときに楠木正成のことや後醍醐天皇のこと、ひいては建武の新政のことを話しても、どうもいまひとつピンとこない様子で、

「それ、何年頃のこと？」

「1334年だから約700年ほど前のことだよ。」

と、何気なく言った私の顔を見るなり首をかしげたのです。

最初はその理由が分からなかったのですが、次のことで合点がきました。

わたしたち日本人の頭の中は、それこそ「天岩戸(あめのいわと/あまのいわと)」に登場する天照大神(あまてらすおおみかみ)のころから一本の線でつながっているから、古事記(ふることふみ/こじき)の神代(かみよ)から現代まで、ざっと2000年の時空を越

語形変化で言えば「をかし」ではなくて「おかし」あるいは「おかしい」です。

あるいは、文法面の例として、古文の形容詞には「ク活用」や「シク活用」という区別がありますが、現代語にはありませんし、平安朝では促音便(いわゆる「っ」)の表現方法がなく、例えば、「走って」は「走りて」と書き、イ促音便や撥音便(「ん」)もなく、「急いで」は「急ぎて」と書き、「読んで」は「読みて」と書いたのです。

アロンゾ君の言う英単語、特に動詞に当たる英単語の語形変化が、正に「走りて→走って」・「急ぎて→急いで」・「読みて→読んで」と重なるように感じました。

日本語を相当勉強している彼ですが、さすがに『枕草子』は難しすぎると思ったので、コナン・ドイルと同年代の幸田露伴の『五重塔』を見せたところ、眉間にしわを寄せていましたけれど、私が現代語に読み替えたのを聞くと、

えることが出来る想像力を持っているのです。

ところが友人である青年の頭の中にあるアメリカ合衆国としての歴史は、日本人の時空感覚の7分の1ほどしかないもので、2000年前の自国の歴史に思いを馳せてみよと言われても、とんでもないことだから、そうなると2000年前も700年前も未知なるものなのです。

そんなこんなの流れから、まだしばらく日本に滞在しているというので、あることを試すために、塾舎に来てもらいました。

「*Alonzo, this "How would you feel?"*アロンゾ君(青年の名前)、これ、君ならどう感じるの？」

そうやって彼に本棚にある『シャーロックホームズ』の原典の英文を見てもらいました。

つまり、書かれた年代が1800年代である『シャーロックホームズ』に対して、日本人が幸田露伴の『五重塔』を読んだときと同じような感じ方をするのかどうかを確かめたかったのです。

アメリカ人からすれば外国人である私ではあるけれど、1800年代に書かれた英文と現代に書かれた英文、例えばドナルド・トランプ氏が大統領を退任した直後に書かれた900ページに及ぶ彼

「*Oh, is it close to this?* あ、これに近いかも？」

と言っていたので、言葉は違えども、言語の世界にはなにかの不思議な共通点があるらしいと感じました。

それで、英語長文が不思議なことに日本の現代文を飛び越えて古文と共通点があるように感じたのは、次のような感覚で古文を読み始めたからこそ気づけたことでもあります。

文法事項と表現事項のバランスというのか、文法事項をゴリゴリに使うワケでもなく、かといって、きっちりとした下地がなければ、目に入る英文に圧倒されるだけで手がつけれないわけですし、そこに語彙数と語彙力がかさなってくるので、こういうバランス感覚が、英語長文の読み解きの感覚と古文のそれとよく似ているのではないかということなのです。

そこで更に気づかされたのが、小学生とか中学生が学習する英語と高校生になって学習する英語との決定的な違いです。

日本語についても英語についても日常会話の言語レベルはほぼ同程度だということです。

つまり、毎日の会話で使われる言語レベルは、そんなに高くないということなのです。

ちなみに日本人の日常会話レベルは、中学2年生レベルなのだそうです。もちろん、大人同士の会話では「大人の事情」が絡むので、現役の中学2年生同士の会話をそのまま引っ張ってきて「大人の会話」と比べるのはナンセンスというものです。

でも、中学2年生のお子さんでも、先生とか先輩とかとちょっと改まった話をするときは、むしろ大人同士の会話に近いし、友達同士でのカジュアルな会話と先生とのちょっとしたフォーマルな会話をちゃんと使い分けられる子どもさんであれば、かなりしっかりと語彙レベルをもっていると言えるでしょう。

そして、それは英語でもほぼ同じことが言えそうです。

確かに40%を日本語で60%が英語のアロンゾ君との普通の会話って、難しいレベルの語や言い回しは、ほぼ使いませんけれど、私が英語でのふさわしい

言葉が見つからずに、ちょっと考たり迷ったりしていたら、彼の方から適当な言葉をあてがってくれるし、逆のときには、目下、日本語を勉強中の彼に私から日本語をあてがっていて、お互いに、

「ああ、こういうことを言いたいんだろうな。」

と、予測しながらの会話が成り立っているところを見ると、ふだんの会話の言語レベルは、日本語も英語も、ほぼ同等と言えるのでしょう。

それで、今更ながらに気づかされたというのか、明確に分かったことがあるのです。これも、日本語とか英語とかの区別なく「しゃべり言葉」と「書きことば」があるということです。

小中学校の英語は、たとえ教科書といえども、「しゃべり言葉」を主軸に英語の文法や表現を学習していて、それだけではいけないので、ごく初級的な「読み物」が随所に挿入され、そこで「書きことば」としての表現を学習する、というのが教科書の編集パターンになっています。

なので、「しゃべり言葉」を中心に展開される単元学習の部分は比較的理解できるけれど、その単元とほぼ同等かやや高いレベルの「書きことば」で表

現された「読み物」の内容となると、途端に難しく感じて理解が出来ないという子どもさんが増えてくるのでしょう。

この原因は、おそらく言葉力の後れや不足にあるように思えます。普段はよくしゃべりをし、友達を楽しませるのが得意な子でも、いざ作文となると急に「無口」になるパターンが少なくないのは、その子の語彙数について「しゃべり言葉」の比率の方が「書きことば」のそれよりも圧倒的に多いからと言えます。

それは、数学の証明問題を解かせるとよく分かります。解き方は分かるのに証明文が書けない、というものです。

私からすれば、自分の頭の中で解き方を組み立てられることが出来たのであれば、それを、そのまま書けばよいだけのことなのです。

なので、ナンで出来ないのだろうと不思議でならなかったのですが、頭の中で解いているときは「しゃべり言葉」で考えていて、いざ、証明文を書くとなると、書き方の流儀というのを教科書で学習するのですが、それが、かえって書き難くさせているということが、最近になって分かってきました。

それだけ、こちらも、国語読解や古文の読み解き、そして高校の英語の読み

解きが新たに加わったことで、言葉というものがどういう「生き物」なのかという理解が確実に進んでいるといえそうです。

小中学校で学習する英語について、特に文法的な内容は、日常会話、つまり「しゃべり言葉」を主軸に構成されていて、その合間に「書きことば」で表現された「読み物」が随所に置かれているというバランスで構成されているというのは前述通りです。

2021年度からは英語の教科書が大幅に改訂され、特に文法内容が上位の学年から前倒しにされます。

それは、「しゃべり言葉」で構成された内容は中学2年生辺りで終えて、中学3年生からは、「書きことば」で表現されたものがより多く入って来る、ということなのでしょう。

つまり、それだけ、感覚的な英語から論理的な英語に移行させる時期が1学期分くらい先行されるということなのですが、文部科学省選定の教科書のうちで、サンシャインの、特に中学1年生の初期の範囲の雑多さと混沌具合を見た瞬間に、これはまずいと思ったのですけれど、ナンでこんなに出来の悪いものを選定したのか、その選定に関わった有識者の頭の中を理解出来ません。

もともと、サンシャインはずっと以前から出来が悪くて、大阪教育大学の附属中学校天王寺学舎（文部科学省直轄の学校です）で採択されたのはたった1年間だけで、翌年からは極めて完成度の高いクラウンに変更されたこともあります。

その他に、ニューホライズンという、これまた出来の悪い教科書があったのですが、こちらは過去形で、大改訂後は理路整然とした完成度になりました。もちろん、現在の教科書も安心して使うことが出来ます。

中高一貫校に通う中学3年生の生徒さんには、授業の終わりに次のようなことを伝えました。

「より論理的な英語表現が増え、テキストの完成度が高くなるということは、それだけ『書きことば』が増えていくということです。

それは、いわゆる、ますますしっかりと語彙力、つまり日本語力が要るということ。

『英語なのに日本語力とは、これいかに？』なのですが、高校の古文をしっかりと学習していくと、私が感じたことを肌で分かるようになりますよ。」

英語力を飛躍的に伸ばすのは、現代国

語の読解力を伸ばすよりも、古文の解析力を伸ばす方が 圧倒的に有利であり、近道になります。

英語も日本語も、今を生きる言語ですが、日本語には、過去から生き続け、今なお、静かに佇み生きて続けている言語があります。それが、古文。

作家の中野孝次さん（故人）が、

「古典に触れるということは、現代に触れるということ。古典の方が、現代文よりもずっと進んでいる部分があるから、古典は決して古くなく、むしろずっと新鮮なままです。」

と、おっしゃっていたのを何かの情報媒体で見聞きした覚えがあります。

そのときは、「ふ〜ん。そうなんだ」という感じで、まるで実態のない思しかかったのですが、今はそれを実態としてひしひしと感じている自分がいます。

日本語や英語だけにとどまらず、その言語を使ってきたそれぞれの民族や国家がもつ独自の文化や歴史を内包する言語は、本当に奥が深く、更にそれが深いほどにおもしろいと思うのです。



中野孝次 國學院大學ドイツ語学科教授を経て作家として活動した。代表作に『清貧の思想』『ハラスのいた日々』などがある。古典に造詣が深い。

## プロの技を知りたい

先日、友人からこんなLINEメッセージが届きました。

「温玉を作るキッチングッズを送ったからね。」

ワタシの茹で玉子のブログ記事を読んできた友人からのサプライズプレゼントです。

で、温玉が作れるグッズと言われたものの、てっきり茹で玉子を作るキッチングッズだと思っていたのです。こういうところ、ホンマに何も知らないワタシ。

そして、2日後に届いたのを見て最初に想像していたのはかなり違っていたこともあり、箱から取り出してキョトンと見つめてしまいました。

「ブロッコリー&茹で玉子生活」が板についてきたというのか（7月いっぱい丸3か月）、トマトも添えて食べているうちにお腹の調子がすごく良くて、おまけに食後の膨満感も取れたり、ホンマにエエこと尽くめなのです。

温玉といえば醤油。「茹で玉子+塩」よりも塩分過多になりにくいのかもと、早速挑戦してみました。

茹で玉子を作るときと同様に玉子に穴を開け、沸騰したてのお湯に玉子を入れて蓋をして、20分間つけおきます。これだけの作業なのです。

市販されている温玉のように、殻をサクッと剥くことができるものだと思います。これがなかなか難しいのです。

コツは、温玉器きから取り出した直後に氷水につけること。そうすることで殻の中で一旦膨張した玉子が縮み、殻がキレイに剥けるという理屈ですね。なるほど、こういうところに理科が生きているのです。ふむふむ。

そして次の日、温玉作りに再挑戦しました。

茹で玉子を作るときは殻が剥けやすいように、あらかじめ穴開け器で玉子の下ぶくれになっている方の底の部分にポチッと穴を開けておくのですが、前日の温玉作りのときもそれをしていたものの、見事失敗しました。

食べられることは食べられますが、見栄えがよろしくないのです。まあ自分が食べるのですから、見栄えがどうであろうとエエのんですが、見た目キレイに越したことはありません。

で、昨日よりもちょいとだけ発展させる意味もあって、下ぶくれの底にだけでなくて、細くなっている上の方にもポチッと穴を開けてみました。

例によって「温玉器」に沸騰したての湯を入れ、続いて静かに玉子を入れて蓋をし、20分ほど静かに置き、その後蓋を開けたらそのまま流水で冷やし

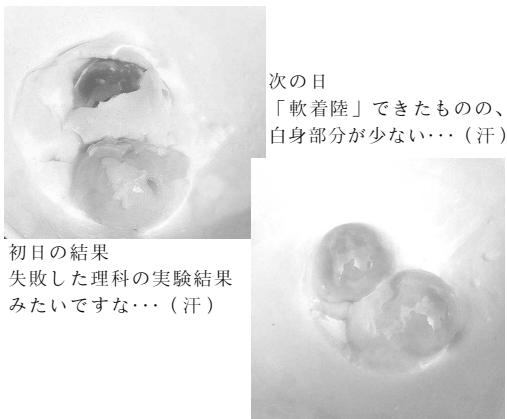
ました。

その後、玉子の下半分だけ殻を剥きます。あとは皿のちょっと上辺りで下半分だけ剥けた茹で玉子を持っていると、まだ剥いていない上半分の殻の帽子から重力効果でそのままスリと抜け皿にポンと「軟着陸」。上にも小さな穴分けてるので、重力効果と共に上の小さな穴からも空気が入るので、ストンと落ちるんとちゃうかという予想通りでした。ここにも理科が役立っております。

難を言えば、殻の方に玉子の白身がちょっと多くひっついてる事です。

お店で売られているのって殻もパカッと割れて中味もツルリンと、ホンマにキレイに出て来ます。

このプロの技、知りたいですね。



## 人体の不思議・脳の不思議

食生活を見直すために、色々試している最中です。とはいうものの、仕事柄、夕食にあたる食事の時間がとにかく遅いのです。

午後10時を過ぎたら、健康のために食べないようにしましょうなんていう世間の常識は通用しません。というのは、午後4時から生徒さんがやって来て、一応、午後10時に業務を終えるのですが、実際はというと、午後2時頃から塾舎に入り、生徒さんが引けたあとにブログなんぞをしたためていると、気づけば「日付変更線」付近だったり、ときには「変更線」を1時間以上も超えて、午前1時過ぎに帰宅することもあります。

一般的なご家庭ですと、午後6時30分から午後7時くらいに間に夕食を摂られるのでしょうか。その時間帯に夕食を摂るのが、もちろん健康面では良いのですが、それができないので夕食は帰宅後になってしまいます。ですから、早くても午後11時、「変更線」を超えた日だと、午前1時過ぎになります。

ダンベルごっこなどの「ゆるゆる筋トレ」はその後になるので、就寝するの

は午前3時すぎです。もっとも、午前中はゆっくりさせていただける、そういう意味では大変恵まれた仕事ですので、午前11時頃から1時間強を雨天とか疲労感がない限り、ウォーキングに使うことが出来ます。

夕食というにはあまりにも乱暴な時間であり、夜食のような感じですので、およそ健康的とはいえないわけです。消化物も恐らく完全に消化しきれない状態で朝を迎えると思われるので、朝食は摂らずに水分補給をしたらウォーキングを開始し、未消化物をなるべく消費するようにしています。

3年ほど前に夜間の頻尿だけでなく昼間にも頻尿の症状が出始めたので、このままだと糖尿病発症へまっしぐらという危機感を持ったことで運動を始めましたら、1週間ほどで夜間の頻尿が止まりました。

ところが不思議なのは、朝一番に用を足したあと1時間ほどしたらまた尿意が起きたり、ウォーキングをする直前に用足しを済ませたはずなのに、ウォーキング中に尿意を催したりするのです。

そこで、鍼灸師先生に相談したら、**3**以下のようなことでした。

夜間の頻尿が収まったのは正常になったことで間違いなし。起床後は内臓の動きが活発になり始めるので、朝一番に用を足しても1時間後に尿意を催した場合は、夜間に余分な水分が体内に残っていることがあって、内臓が活動を始めるとその余剰分が濾過されて排泄されることだから、これもセーフ。

ウォーキングで身体を動かし始めて間もないときに尿意を催すのも、体内に残った夜間の余剰水分が濾過されての反応なのでセーフ。

近頃のように気温が高くなると、余剰水分が濾過されて尿になる前に汗になるので尿意を催さない。気温が低くなると発汗作用が落ちるから尿意を催して排泄される。「なるほど、そういうことか!」と納得させられました。

ゆるゆるとはいえ、筋トレを始めて1年半、ウォーキングを始めて1年。内臓系の調子は随分と改善されました。そういう流れもあって、遅すぎる夕食の時間的要素はもう替えようがないので、食事内容をもっと見直してみようと思ひ立ちました。

まずご飯を今までの3分の2にし、揚げ物などの今までのメニューをブロッコリー&トマトと2個のゆで玉子、そして煮たきものの総菜1品に置き換えてみることにしました。

その他には、豆腐とネギのみそ汁かタマネギのみそ汁を摂っていましたが、これはそのまま残しました(タマネギって結構カロリーが高いらしい)。

それでも食後に現れる空腹感があり、それを満たすために、コーヒープレイクと称して食後にコーヒー(ブラック)と少々の間食を摂っていたのですが、ブロッコリーとゆで卵がこの空腹感を起きないようにしてくれているのか、食後にブラックコーヒーは飲みますが、間食は完全にストップしました。

なんか、こうやって書きますと、アスリートまがいの食事、ダイエットまがいの食事のようですが、そのようなことは意識していません。

スーパーでブロッコリーを見たとき、無性に食べたくなったのがきっかけで今もなお続いていて(3か月続いています)、その付け合わせに何がエエんやろかと何となく考えた結果が茹で玉子とトマトだったのです。

で、最近ちょっと悩んでいるのが茹で玉子なのです。

なかやまきんに君って、YouTubeで彼自身が言っていました、茹で玉子を1日に5個も食べるそうですけれど、これはさすがにキツイ。

正直なところ、基本的に野菜は好きなので、毎日ブロッコリー&トマトというメニューは全く気になりませんが、茹で玉子となると2個でも毎日結構キツイものを感じます。

これをなんとかしたいと思ひながらも探しているときは得てして見つからないものらしく、掃除道具を求めて100円ショップに入り、お目当てのお掃除グッズが入手できたあと、何気なく店内を見ていたら、このようなキッチン用品に目が留まりました。



このエッグタイマーは重宝しています。これが100円だなんて。ホンマにあなどれません。



こちらのグッズも重宝しています。こういうアイデア商品は100円ショップならではすね。

ニンゲンの思考のアンテナというものは、ホンマに不思議です。

茹でた玉子の殻を剥くのが厄介だと感じれば、茹でる前に小さな穴を開けておくと殻を剥きやすくなるという情報が耳に入り、穴を開けるためのツール探しをするし、茹で玉子ってどのくらいの時間をかけたらエエんやろかとか、半熟にするにはどのくらいの時間をかけたらエエんやろかと思ひ始めると、塾生さんのお母様から写真のようなグッズを教えて貰ったりあるいは、食べにくいと思ひ始めた茹で玉子を細く切ったら食べやすいとすると、茹で玉子を切るグッズが目についたり、いろんな情報収集アンテナが立ち上がるのです。

人体の摩訶不思議もさることながら、ニンゲンの脳も摩訶不思議なるものです。

そのように考えると、ダイエットの効果とか筋トレの効果もまた脳の認識が少なからず関係しているんやろなということを実感中であります。

そんなこんなで、ジュクチョーの「生体実験」は、まだまだ続きます。



## 「にぬき」の話

「にぬき」という言葉を耳になさったことはありますか？ 茹で玉子のことです。何年か前に生徒さんに尋ねたことがあるのですが、全員が知りませんでした。ワタシが小学生の頃は友達もよく言っていた記憶があるのですが、あらためて発してみると、何とも奇妙な響きの言葉なのです。

実はこれ、京都弁(京ことば)なのですが、ZOOMの生徒さんで京都の方がいらっしゃるので尋ねてみましたけれど、「聞いたことない」そうです。

文字通り湯で煮て(中味を)抜くという意味で、元来は「煮抜き玉子」と称します。京都は嵐山の名物に「赤煮抜き」があるそうですが、これは白い殻ではなくて赤っぽい殻の玉子を茹でたものなので、この名があるそうです。

80歳で鬼籍に入ったバアチャンは現在の大阪府富田林市赤坂村の生まれ。いわゆる南河内出身で、ずっと「にぬき」と言っていました。なので、てっきり大阪弁でも特に南河内や泉州地方の方言だと思ひていましたが、京ことばだとは知りませんでした。



嵐山名物「赤煮抜き」



# 小学低学年期の国語読み取り

**テスト 3 標準レベル**  
つぎの文しよを 読んで、後の といに 答えなさい。


ミフールは 今年、まほうつかいの しけんじに 会った。前、まほうの はつごうの ときも、まほうを りすに かえた。まほうを しっばいして、どんぐりを ライオンに かえて、まほうを おどろかせて しまいました。ミフールは どうにか、まほうを 上手に つかえるように なることとして、夏休みに、毎日、まほうの ジョンコラ先生の ところまで、行って、まほうの れんしゅうを しました。ミフールは とても、まほうを つかえるようになった。まほうの しゅんを、ミフールは、何と、たたくたか、わかりません。一週間も、すぎると、ミフールの おしりは、赤く、はれあがりました。それでも、ミフールは、一生けんめい、れんしゅうしました。

① ミフールは どの まま、まほうを つかえたか。 ( )

② ミフールは、まほうの はつごうを、どの まま、つかえたか。 ( )

③ ミフールは、まほうを、どの まま、つかえたか。 ( )

④ ミフールは、まほうを、どの まま、つかえたか。 ( )




**テスト 10 標準レベル**  
つぎの文しよを 読んで、後の といに 答えなさい。

家に 帰るときのことです。どこかで、じごくが、あつたらしく、電車が、なかなか、来ませんでした。いつもより、おくれて、きた。電車には、たくさんの、人が、のって、いました。ぼくは、早く、電車の、のりたくて、ホームの、いちばん、前、に、立って、まつて、いました。そして、ドアが、あいた、ら、すぐに、のろうとして、いました。ア、どこからか、

「あぶないぞ、おりの、人が、先だ。」

と、声が、しました。ぼくは、ア、後、もどりました。

あいた、ドアから、ウ、たくさんの、人が、ホームに、おりて、きました。あのまま、ぼくが、電車の、のろうと、して、いたら、おりて、くる、人の、いきおいを、おされて、けがを、して、いたかも、しれません。ぼくは、だれが、ちゅういをして、くれたのかと、ふりむきました。でも、だれだか、わかりませんでした。これからは、電車の、のるとき、のマナーを、しっかり、ア、エ、と、思っています。



この問題は、奨学社『ハイレベ100 小学2年生読解力』という問題集の初めの方にあるものです。小学1年生の気配を残しつつも、実際にご家庭でお母さんと子どもさんと学習するには、やや手強い箇所があります。

私の塾の生徒さんで1年生の頃から来て下さっている方であれば、「あ、これ、やったことある」とおっしゃることでしょう。

内容自体は難しくありませんが、正答率の低い問題があります。それが罫

だ(4)の問題です。

9割の子どもさんが、「ジョンコラ先生がとてもこわくてきびしい先生だから。」と答えて不正解になります。

ここを読んで下さっているあなたは、このように思われたではありませんか？

「あれ？ 正解じゃないの？」

いいえ。不正解なのです。大変なのはここからです。これが不正解になる理由を子どもさんに納得するように、どう伝えればよいか。ここが大変なのです。

**テスト 10 標準レベル**  
つぎの文しよを 読んで、後の といに 答えなさい。

この文しよは、どんなときに おこったことを 書いて いますか。

① ぼくが ( ) に ( ) と ( ) と ( )

② ( ) の ( ) に入ることばで、 ( ) も ( ) も ( ) を ( ) した。

③ ( ) の ( ) に入ることばで、 ( ) も ( ) も ( ) を ( ) した。


④ ( ) の ( ) に入ることばで、 ( ) も ( ) も ( ) を ( ) した。

⑤ ( ) の ( ) に入ることばで、 ( ) も ( ) も ( ) を ( ) した。

⑥ ( ) の ( ) に入ることばで、 ( ) も ( ) も ( ) を ( ) した。

⑦ ( ) の ( ) に入ることばで、 ( ) も ( ) も ( ) を ( ) した。

⑧ ( ) の ( ) に入ることばで、 ( ) も ( ) も ( ) を ( ) した。



**テスト 10 標準レベル**  
つぎの文しよを 読んで、後の といに 答えなさい。

子どもさんがこの題材文を読むときに真っ先に目に入ってくるのが「家に帰るときのことです。」という文言です。そこで早速問題を見てみると、最初のマス目が2文字分、次のそれが3文字分です。仮名に書き換えて「いえ」と書き込み、「帰る」では「としたとき」には続けられないので、苦肉の策のように「帰ろう」と書き入れます。「帰るとき」を「帰ろう(としたとき)」と語形変化させることが出来るということについては高い能力なので、ほめて差し上げたいです。でも、この問題の答としては無理矢理なので、手放しではめられないところが微妙です。

生徒さんともう少し読み進めていくことにしましょう。

すると、「家に帰るとき」という大きな行動ではなくて、より細かな行動が書かれている部分が現れます。それは「電車に乗りたくて」というところと「ドアがあいたらすぐにのろうとしていました」という部分です。

この問題も、奨学社『ハイレベ100 小学2年生読解力』という問題集の初めの方にあるものです。

大抵は最後の問題で正答率が落ちるものですが、この問題では(1)なのですね。

この年齢から小学4年生くらいまでのお子さんが読み取り問題に接する際に、ある特徴的なことが現れます。

「書きぬきなさい」と「文の中のことばを使って書きなさい」という指示の区別がなかなか出来ないことと、この問題のように空白のマス目に、無理矢理に書き込もうとすることです。

初めの「書きぬきなさい」と「文の中のことばを使って書きなさい」という指示の区別が明確にできるようになる

には、かなりの時間(年数)がかかります。極端な場合、中学3年生の生徒さんでも、読解問題に真摯(しんじ)に取り組んでこなかった思考レベルの生徒さんの場合は区別が出来ていないことが多いというのが現状ですので、ここでは論じないことにします。

問題なのは、空白のマス目の字数に合わせるために、無理矢理にでも書き込もうとすることです。

もっとも「書けばイイんでしょ？」なんていう感情はなくて、むしろ、なんとかして空白部分を埋めなきゃいけないという、この年齢の子が持っている独特の「正義感」からすることが多いように感じます。

では、どんな答を書く子が少なくなっていくのでしょうか。

塾生さんの親御様からですが、新規の方からのお問い合わせや面談の際に少なからず発せられるのが次のせりふです。

「答は分かるんですが、どうしてこの答えになるのかを上手く伝えられない。」

「説明すればするほど親の方が意地になってしまい、なかなか理解しないわが子を感情的になって、ついつい責めてしまう。」

まさに左の問題箇所がそうなのです。では、解説していきますね。

特に低学年のお子さんで読み取り問題が好きなのは、多くはありません。読書が好きなのは結構いますが、「読み取り=勉強」という「式」はもう出来上がっていますので、敬遠する気持ちが芽しかけています。

中には要領の良い子がいて、それが正解にたどり着けることが多いという、いわゆる「プチ成功体験」によって、「これは使えるやん」という小技(こわざ)を使うのです。その小技とは、題材文を読まずに問題を読んで、その答の部分を探し出すというものです。

しかしながら、この(4)ではそれを通用させない「小技封じ」の問題であることに気づかないで誤答させること

で、全体をきっちり読まないといけなことを体感させる設計になっています。だから手強い。

では、もう一度全体を丁寧に読み直してみよう。

このミフールという女の子は、失敗をよくする子、いわゆるあわてんぼうさんだということが、2行目の「前の」から6行目の「おどろかせてしまいました。」までの範囲から分かります。

その後、ジョンコラ先生のところで修行を重ねるのですが、ジョンコラ先生は「じゅ文を一言でも言いまちがえるとおしりをビシッとたたくのでした。」と書かれています。

ここで、「ミフール=あわてんぼう=じゅ文を間違えてへまをする=ジョンコラ先生にたたかれる」と結びつけることが出来れば、(4)の答は「ミフールがよくじゅ文を言いまちがえるから。」が正解となるのが分かります。

このように、全体の流れから答を導き出すという思考は、公立小学校の2年生ではまだ行われません。行われるとすれば、3年生の3学期頃からでしょうか。

(1)の問題文には、「どんなときにおこったこと」と書かれていますね。

子どもさんがこの題材文を読むときに真っ先に目に入ってくるのが「家に帰るときのことです。」という文言です。そこで早速問題を見てみると、最初のマス目が2文字分、次のそれが3文字分です。仮名に書き換えて「いえ」と書き込み、「帰る」では「としたとき」には続けられないので、苦肉の策のように「帰ろう」と書き入れます。「帰るとき」を「帰ろう(としたとき)」と語形変化させることが出来るということについては高い能力なので、ほめて差し上げたいです。でも、この問題の答としては無理矢理なので、手放しではめられないところが微妙です。

生徒さんともう少し読み進めていくことにしましょう。

すると、「家に帰るとき」という大きな行動ではなくて、より細かな行動が書かれている部分が現れます。それは「電車に乗りたくて」というところと「ドアがあいたらすぐにのろうとしていました」という部分です。

そこで、次のように導いていきます。

「ぼくは電車に～のろうとしていました。」の部分で、この子は何をしようとしていたのかが「文の幹(大切なところ)」になって、「早く電車にのりたくて」という気持ちの部分は、枝や

葉っぱに当たるところだということを区別させるようにします。つまり、何をしようとしたのかという事実の部分と、何をしたかったのかという気持ちの部分とをしっかりと区別させることで、文章を論理的に捉えるという考え方とスキルを伝えるようにします。もっとも、この年齢のお子さんに「論理的に」と言ったところで理解は出来ないでしょうから、「これが上手に読み取るコツだよ。」と伝えます。こうすることで、子どもさんの頭の中に「上手に読み取る」あるいは「上手に」というほめ言葉が刻まれるのですが、これが「プチ成功体験」となって積み重ねられていきます。

その後、「この子は何をしようとしたのか」を考えさせて、「電車にのろうとした」というところまでいざなうことが出来れば、「□□に□□としたときのこと」と、書き抜きで、しかも字数と文とが合致することが分かり、お子さんの頭の中をスッキリとさせることが出来ます。

大切なのはこの「スッキリ感」です。なぜなら、この感覚が達成感につながり、それが「プチ成功体験」となるからです。そして、この体験の積み重ねがやがて自己肯定感へと成長し自信となるのです。





